より良く生きる ―出居清太郎先生の世界― 第30回

山本博也

困難をのり越える力

今年10月に高市内閣が成立しましたが、その直後に行われた各機関による世論調査によると内閣への支持率はたいへん高いものでした。中でも目を引いたのは、20歳代から50歳代における支持率が7割～8割という高率だったことです。

それは、若い人たちや現役世代の人たちが高市首相の威勢のいい、強い言い方に、今の世の中を何か変えてくれるのではないかという期待感を持ったからだろうという識者の解説がありました。

そうだとすれば、若い人たちや現役世代の人たちが、現状に不満を持ち、将来に不安をおぼえ、生きる元気が衰えているということですから、大きな問題です。

人々が元気に希望をもって生きていける社会になってほしいものですが、すぐには難しいでしょう。しかし不十分な、欠陥の多い社会にあっても、生きていかなければならないのが私たちです。そして生きている間には個人個人さまざまな困難に直面します。困ったこと、苦しいこと、悩み事に出合います。そうした困

難に対応し、のり越えるためにはまずもって心の力が必要だと思います。

■通れない道はない

〈A〉神が連れて通ってくださる

いのちの親が作られた道はなるほど厳しい道だ。厳しいが、通れない道ではない。通れる道だからこそ通りなさいよと言われる。がけ道も坂道もデコボコ道も、われわれ子どもが通るために作られているのであって、どのような道もいのちの親が連れて通ってくださるのである。この道を通ればそこに光がさしてくる。幸せがそこにおのずから生まれてくるのであります。

お互いに　悲しきときがありしとも
　　み親はつねに守りましまし

幾万の　あだなす人がありしとも
　　いのちの親は救いましまし

（出居清太郎先生のことばから）

筆者が登山といえるものを初めて経験したのは30代の終わりでした。職場の仲間５人で八ヶ岳連峰の赤岳（標高２８９９ｍ）に登りました。私を含め４人は初心者でしたが、１人が大学の山岳部ＯＢの山男でしたので、彼のリードで、キツかったですが、無事登って、下りてきま

シャコサボテン　大西　恵

した。途中の休憩のとき、彼が手際よくお湯を沸かしていれてくれた紅茶のおいしかったこと！　まさに「先達はあらまほしきものなり」（徒然草）です。

四国の八十八のお寺を巡るお遍路さんは、衣服や杖に「同行二人」と書いてあります。単独行であっても、いつも弘法大師様と一緒という思いで、苦しい道中も元気に歩き通せるのでしょう。

〈A〉の文章で先生は、「厳しいが、通れない道ではない。…どのような道もいのちの親が連れて通ってくださる」とおっしゃっています。まさに「同行二人」です。しかも、森羅万象、世のすべての出来事をかくあらしめる原動力、またその秩序を神（いのちの親）と呼ぶならば、その道をつくったまさにその神が同行してくださるということですから、こんなに心強いことはありません。いってみれば登山道を開発したその人に付き添ってもらって登山をするようなものですから、こんな安心なことはないでしょう。

■苦難の先に幸せがある

〈B〉艱難辛苦があればこそ成長できる

苦労艱難する人は辛いでしょう、絶えず肉体を患う人は辛いでしょう、借金の言い訳、間借りをして追い立てられる、それは辛いでしょう。しかし、その艱難苦労があればこそ前進できる、改革できる、改造ができる。

私の人生行路はなかなか厳しく、死を決心したこともあります。そうした苦難にあった時、迷いの心、弱い心が起きた

が、それを思い直し、思い直ししてのり越えていくのです。

苦難ということではなくとも、人の言葉によって心がくもったり傷ついたりする。頭から下肥をかけられたこともある。この馬糞野郎と罵倒されたこともある。その時、大根でも肥をかけられて太る、これで私の魂も太って有難い。「馬糞(を)やろう（野郎)」とおっしゃれば、喜んでいただきます、そしてジャガイモの肥料に置いて帰ります（笑)。きつい言葉をかけられれば、よく励ましてくださって有難うと感謝する。

苦労しているときは、自分のよい歴史をつくっていると思えばよい。

雨もあり嵐もありて　草も木も
強く正しく伸びてゆくなり

（出居清太郎先生のことばから）

どんな苦難も必ずのり越えられる、この苦難によって自分は鍛えられ、成長できる、そしてその先に自分にとっての幸せがある――それが先生からの、ご自身の体験によるメッセージだと思います。そうだなあと思える体験が、誰にも少しはあるのではないでしょうか。そうした体験を重ねる中でその思いが少しずつ強まっていく、それが心を強くしてくれるのではないでしょうか。

心が強くなれば、取越し苦労をして悲観したり、自暴自棄になることなく、これでよしとほほえみながら、元気に前進できます。

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1
修養団捧誠会 https://www.hoseikai.or.jp